

平成31年3月15日
大分河川国道事務所かわした
国道210号 川下地区防災検討会を開催します

国道210号 川下地区防災検討会の目的

走行空間が狭く老朽化が進む加々鶴トンネルや落石や崩落の危険性が高い現道における安全性の確保に向けた防災事業について、有識者より専門的かつ技術的な観点から必要性・緊急性・対策内容に関し、助言を頂くことを目的に「国道210号 川下地区防災検討会」を開催いたします。

■主な検討内容

- ・ 国道210号 川下地区における現道の課題
- ・ 対策概要
- ・ 最適ルート（案）



出典：国土地理院ウェブサイト

- 開催日：平成31年3月18日（月）10：00～
- 場所：大分河川国道事務所 第一・第二会議室
- 有識者：三谷 泰浩 九州大学教授
鶴成 悦久 大分大学准教授

■その他

- ・ 会議前のカメラ撮りのみ公開します

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所

技術副所長

ふじわら ふみたけ
藤原 史武

調査第二課長

たかた えいじ
高田 英二

TEL：097-544-4167（代表）

FAX：097-545-7688

URL：<http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/>Twitter：https://twitter.com/mlit_oita

かわした 国道 210 号 川下地区防災検討会（概要）

大分河川国道事務所では、走行空間が狭く、落石や崩落の危険性が高い国道 210 号 川下地区について、有識者による検討会を開催し、課題の解消に向けた対策（案）について議論しました。

議論の結果、主な結論として以下のとおり、とりまとめました。

- 既設トンネル付近の落石・崩壊危険箇所を回避するトンネル新設（2車線）案が望ましい。
- 詳細な設計を実施する際は、地質踏査、ボーリング調査、物理探査等により、現地の地形・地質を適切に把握するとともに、設計に十分反映させていくことが必要。

- 開催日：平成31年3月18日（月）10：00～
- 場所：大分河川国道事務所 第一・第二会議室
- 有識者：三谷 泰浩 九州大学教授
鶴成 悦久 大分大学准教授

□位置図



□当該地域の状況

既設トンネルは、内空断面が小さいため、坑口部やトンネル内部にて大型車の接触が発生。

写真1



拡大図



トンネル坑口での車両衝突状況

トンネル上部には不安定な急崖や転石群が連続しており、H28 熊本地震では落石が発生。

写真2



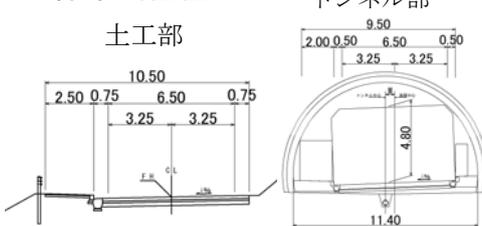
尾根付近の露岩した急崖
【久留米市側】（H29.10.6撮影）

写真3



崩壊裾部状況
H28.4.19撮影

□標準断面図



□最適ルート（案）

